巻　頭　言

学会の創立と盛衰の歴史

馬　場　宣　良

表面科学会は 1979 年発足以来 10 年目を迎え，今や会の基盤も確立し，一流の風格を備えた学会に発展する機運を見せています。人生に例えればオギャーと生まれた幼年期から，いまや強い活動力を持った青年期にさしかかっている時だと思います。

さて，既存の学会についてその成立から現在に至るまでの経過を分析してみますと，どの学会にもなにか共通したパターンが存在しているように感じられます。たとえば私が学生の頃初めて学会なるものに入会したのは（正確には協会）昭和 30 年の春頃でしたが，この学会は昭和の初期に電気化学工業の必要性から生まれ，発展してきたものでした。その初期の頃の講演大会の講演予稿集を見てみますと講演件数約 30 件，がり版刷りの大変お粗末なものでして，いまをときめく大先生のお名前もまだ現れておりませんでした。時代は移り高度成長の時代から省エネルギーの時代を経て，いまではハイテク技術の時代に移るなかで，この学会のカバーする領域は設立当初の電気化学工業から次第に変化し，何度かの盛衰を重ねて今日に至っております。そして現在では春秋の講演大会には 300 件を越える発表申し込みがあり，その整理やプログラム編成には困難を極めているそうです。

振り返って本表面科学会の推移を見てみますと，そのカバーする分野が物理，化学，金属，生物，電気，機械，そして基礎理論から応用・工学に至るまで極めて多くの領域にわたっており，他に例を見ない広範囲な境界領域の学問分野として設立されました。以来設立の主旨に沿って毎年順調に成長を続けており，会誌の発行状況 1 つをとってみましてもその推移の過程が良く分かります。創刊号から Vol. 4 までは年間 4 冊（創刊の年は 2 冊）で，年間の総ページ数は 250 ページ程度であったものが，Vol. 5 からは年間 4 冊＋特集号 1 冊となり，事実上年間 5 冊の体制となっています。そして Vol. 7 からは年間 6 冊のいわゆる Bimonthly となり，年間総ページ数も 500 ページを越えて学会として名実共にゆるぎないものとなってきたわけです。

そして本年の Vol. 9 からは年間 9 冊の発行が理事会で決定され，更に充実されることになりました。これまでは本学会誌は最新の情報を読者に一方的にお伝えするような総説，解説記事が多かったわけですが，これからは会員各位の投稿論文，たとえば原著論文などの掲載が今まで以上に早くなりますので，会員各位の研究発表の場としてもっと活用して頂けるものと思います。これに合わせるようにアメリカの物理学会誌が本誌に投稿された論文の翻訳を非公式に申し出てきており，これが実現されれば本誌に日本語で投稿された論文は同時に英語で世界的に紹介されることになって，そのメリットは計り知れないものがあります。それというのも本学会を運営されている役員諸先生方のインターナショナルな活動，ほとんどボランティアに近い献身的なご努力と，これまで掲載されてきている論文の質の高さによるためであろうと思われます。

願わくばこの発展の勢いを絶やす事なく，なお一層の努力が望まれます。周囲を見ますと発展し過ぎて巨大化した学会は，その巨大さのために掲載される論文内容が広範囲に発散し，また硬直した組織のため機動性に欠ける場合が出てくると良く言われています。本学会のように新しい若い学会にはそのような欠点がまだ現われていません。このペースを永く維持するためには，常に若い新しい感覚を持った会員が次から次へと入会して会を盛りたてていくことが基本的に大切であると考えます。この新鮮な若い力の補給がなされなくなった時，学会は老年期を迎えて今の魅力がなくなってしまうと考えるからです。

（東京都立大学工学部）